【実践報告】

保育教諭の資質向上を目指す公開保育の意義

――0歳から5歳までの保育の充実――

石原　裕子*・藤田　浩子*・川口　昌子*

キーワード：自然　環境構成　主体性　園内研修　同僚性

1　はじめに

大谷さやまこども園の恵まれた自然環境の中で子どもの主体性が育まれる保育を目指し、幼児部の研究テーマを「自然とのかかわりを通して自ら考えようとする気持ちをもつ」におき令和2年度から職員研修を開始した。本園の自然環境を生かした継続した保育の中で、保育の組み立てや子どもの変容の読み取り、環境構成の大切さなどを学び合った。また、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」から幼児期に育てたい3つの柱「知識・技術の基礎」「思考力・判断力・表現力の基礎」「学びに向かう力・人間性の基礎」と、幼児期に育ってほしい10の姿に重ねて子どもの姿に照らし合わせた。これらを基本とし学んだことで子ども達の育ちやこれから育てていきたい力において、保育教諭が見取る指針の根幹が見えてきた。

令和3年度からは乳児部研修も開始した。「自ら遊びを楽しめる子どもの育成」を研究テーマにおき、複数担任間で室内の環境と子どもの遊ぶ様子の課題を共有し改善策を検討した。活動によって低月齢児と高月齢児が分かれて生活する「担当制」を導入することで、それぞれの子どもの姿が捉えやすくなり、より生活が流れていった。また感触遊びを通して友達とのかかわりや言葉を獲得する姿がみられ、発達を促進する感触遊びの大切さを学びあった。3学期には2歳児が3歳児クラスへの移行を円滑に行うために3歳児と様々な交流を行い、その中で2歳児が3歳の生活にあこがれ、進級を心待ちにする姿がみられた。

幼児部研修では前年度の学びを土台にして、より実践的な研修を行った。1学期は「保育環境の意味を読み取る」をテーマに、各クラスの室内の環境構成図を大きく描き、その中に子ども達の遊びの様子や課題を記した保育マップを作成した。課題に基づいて職員間で話し合い、

*大谷さやまこども園（大阪狭山市）

子ども達がいきいきと活動できる場となるように環境を改善し、改善後の様子を再度マップに起こして話し合った。その玩具や遊びのコーナーに込めた保育者の意図や子どもの実態・変容を話し合ったことで、子ども達が安心して自ら環境に関わり、自発的に活動する環境の在り方を深めることができた。

また、1 歳から 5 歳までの「事例研究」も積み重ねた。行事に向かう実践の中から事例を選んで記録することで、子どもを見取る力が養われ、乳児理解・幼児理解が深まった。また保育者間で事例を語り合うことで、他の保育者の意見や感想を聞き、自分の言動や読み取りを振り返ることができた。

令和 2 年度は 3 歳から 5 歳、令和 3 年度は 0 歳から 5 歳まで全てのクラスが園内公開保育を行った。担任が自分の保育を他職員に伝えるとともに、保育後の討議では保育者の援助の在り方を軸として保育教諭間で討議をして学び合う機会になった。

このように研修体制が少しずつ確立されていく中で、子ども主体の保育へと変わり始めたことを全職員で共有できた令和 3 年度であった。

令和 4 年度は、大阪狭山市主催で毎年行われる公開保育の担当園ということで、8 月 2 日に公開保育を行った。実践から保育教諭の資質向上と、公開保育の意義を報告したいと考える。

これまでの研修成果を土台にして様々な観点から保育内容を精査するとともに、当日は研究討議を通して多方面からの学びを得ることで、保育教諭の資質向上を図ることを目的とした。また、令和 2 年度から 3 年度の研修の結果では、時間的制約が課題となっており、乳児部・幼児部が共有できる時間の確保が難しく、保育面・研修面の両面において連携不足が課題であった。このことから、公開保育に向かう過程においては、乳児部・幼児部共に参加できる「公開保育前会議」を行うための時間の確保と、部署別での話し合いを事後に必ず全員が共有することを基本に置き、園全体で取り組むことを大切に進めていきたいと考えた。

2　公開保育前研修会議

令和 4 年度は、大阪狭山市内における各保育園・子ども園対象の「公開保育」を本園が 8 月 2 日（火）に実施することとなった。公開保育前会議において、公開保育は 0 歳から 5 歳までの全クラスが行う・保育指導案（子どもの姿・ねらい・保育者の願い・活動の経過）を作成する・保育の経過がわかるように掲示物を作る・担当制で園の環境を整える・公開保育当日は保育後に全担任と公開保育を参観してくださった方たちとの討議の場を設けることとした。

公開保育前会議において、当日は公開保育のための保育ではなく普段の子どもの様子、そして当日までの過程を大切にした子ども主体の保育を実践することを大前提に日々の保育を進め

ていくことを全職員で共通理解した。まずは普段の各クラスの子ども達の姿を丁寧に読み取り、子どもの興味関心はどこにあるのか、子ども達にどのような力をつけてほしいのか、保育者の意図に沿った遊びがどのように展開されているのかなどを、クラス別、年齢別、乳児部幼児部別、そして全体で報告し合う公開保育前会議を積み重ねた。

各クラス担当者による進捗状況での悩みや助言を伝え合うことで、次第に当日の活動も見えてきて、環境構成やねらいを整えていった。公開保育直前の会議では、全員がお互いの保育指導案を読み理解した上で会議に出席し、担任同士でねらいや保育の経過そして当日の保育の流れについて報告し合い全職員で共通理解した。

改めて、各年齢の子どもの発達の特徴や育ちにつながる保育内容について語り合い学び合うことが本園の資質の向上につながり、そしてそのことが地域の保育の資質向上を目指す取り組みであることを確認し合った。

3　子どもの活動

3.1　1歳児いちご組・子どもの姿

令和4年度は、男児13名、女児3名、計16名でのスタートであった。年度始めに、あそびのスペースの充実を図り、木の温もりを感じるままごとコーナーを新しく設置した。保育者の意図に反して入園・進級という不安定な気持ちの中でも、子ども達が興味をもっていた玩具は、車や電車などの乗り物の玩具であった。男児の比率が高かったことも一因であると考えられるが、乗り物のおもちゃに集中したので保育室内に道路や線路に見立てて遊べる場を用意した。設定された場で乗り物の玩具を持って遊ぶ子ども達が、お互いに嬉しそうに顔を見合わせる姿が見られ、入園・進級という不安定な気持ちをもちながらも子ども同士の世界が芽生えていると感じられた。少しずつ園に慣れてきたと感じられる子ども達も、午睡前には家族を思い出して寂しくなる様子がみられた。そこで、子どもがお気に入りの玩具を手に握って布団に入ることで安心して午睡に入ることができた。そこでも車や電車などの乗り物を選ぶ子どもが多いことに保育者は気付かされた。また、子どもが保育者に1対1の対話として“読んで”と持ってくる絵本においても「はたらくくるま」に人気があり、何度も補修するほど子どもの手に取られる一冊となっていた。散歩時にはパトカーや消防車などの「はたらくくるま」を見つけることも楽しみのひとつとなり、「ピーポー」と言って立ち止まり見えなくなるまで手を振っていた。このような姿から乗り物への関心は大変強いと感じられた。

6月、園生活に慣れてきた頃には、保育室の床に玩具が散乱し、散らばっている玩具を踏んだり放り投げたりして、丁寧に扱われていない光景が増えてきた。その一つの要因として、既成玩具の提供の数が多すぎるのではないかという意見が保育者からでてきた。そこで、玩具を

精査することに注力し、玩具に愛着をもち大切にする気持ちが芽生えるようにと、一人一台ずつの車を持つことにした。保育者が手作りした車の色や形を自分で選び、絵を描いたりシールを貼ったりすることで、「自分で作ったもの」「自分だけの車」と親しみがもてるようにと考えた。すると、自分の車を嬉しそうに眺めたり、手で持って走らせたりして遊ぶ中で、次第に愛着をもち大切に扱う姿がみられるようになった。時には、自分の車を手放して他の遊びに向かったりする子もいたが、そこでは敢えて保育者が車を届けるのではなく、次の展開を見守るようにした。すると、投げ出した車を他児が拾ってその子に届けようとする子ども達の関わりも見る事が出来た。

また、いちご組では様々な感触を手足で感じ、五感を刺激していく機会を多く持ちたいという願いから、散歩にもよく出かけ、近くの公園や園内の砂場で砂の感触を楽しんだり新聞紙やお花紙、小麦粉粘土やパン粉粘土などの可塑性の高いものにも触れたり、片栗粉・寒天などの様々な感触あそびを存分に楽しんだ。夏ならではの水・氷・泡あそびでは、最初は抵抗があった子も、友だちと一緒なら少しやってみようという気持ちが芽生え、少しずつ楽しさに気づき始め、積極的に遊ぶ姿がみられた。友達と一緒が嬉しいという関係性も出てきた。また、粘土あそびでは、指先だけでなく口でもその感触を探索しようとする姿が低月齢児からは見られ、匂いを嗅ぐ姿もみられた。このように身近な素材に手や足で触れて感触あそびをくり返す中で少しずつ見立てあそびが始まり、料理をする真似、食べる真似を楽しみ , 友達や保育者とのやりとりの中で言葉を獲得していった。

そこで、公開保育では今までに経験した様々な感触あそびの中からパン粉粘土を実践内容として選択した。見立てて遊んだ粘土を子ども自身が手作りした大切な車に乗せるなどして遊んでほしいと、保育者間での思いが高まった。

当日は保育室でのパン粉あそびから始まり、自分の思いで丸めたり、ちぎったり、広げたり、集めたりしてパン粉粘土の感触を味わい存分に楽しんだ。そして子ども達は出来た粘土を愛着のある自分の車にのせてテラスに飛び出して遊び始めた。活動場所は、開放感を感じながら存分に車を走らせて遊んで欲しいという願いから、本園の魅力のひとつである広いテラスに目を向けた。保育者はテラスを通路と捉えていたが、子ども達は保育室の延長線としてのびのび遊ぶ姿がみられた。テラスには、道路に見立てた段ボールや、クラスで大切に飼育しているカブトムシやかたつむりの飼育ケースなどを設置しておいた。子ども達はカブトムシやかたつむりにも、自分で作った粘土を届けたい！という思いで見立てて遊び目的を持って夢中で車を走らせていた。見立て・つもりの世界と現実の世界を行き来する中でのワクワクした気持ちや、保育者や友達とのやりとりを楽しむ姿からも、五感が刺激されていることが伺えた。

〈考察〉

4月に整えた環境構成では、ままごとコーナーを充実させたが、子ども達の興味・関心は乗り物にあった。子どもの興味や関心について保育者内で環境の改善点などを出し合う意見交換が始まり、ままごとコーナーの環境を見直して乗り物を走らせやすいスペースを準備した。

公開保育に向けての取り組みの中で、乗り物への興味・関心を入り口にした遊びがどのように展開していくかを、よく話し合った。近年の保育では、ICTを活用し、業務の効率化が図られる一方で、複数担任制をとるクラスでは特に丁寧な対話による共通認識を行うことで乗り越えられることが多くあると考えていたが、今回の公開保育の経験はコミュニケーションの重要性を改めて感じる機会となった。保育者がものごとを一面ではなく多面にわたって見ていくことで、活動の幅が広がった。また、子ども達の見立て・つもり遊びの中で保育者が先走り、子どもに提案することが多くあったが、ゆっくり見守ることで、1歳児なりの表現に出会う機会が増えた。保育者の意識を変えることで、子どもを主体にした保育への気づきが多く、実践していくことで成果も見えた。1歳児クラスは0歳・1歳・2歳という成長過程の真ん中クラスであり間に入って0歳から2歳を繋いでいく橋渡しがしやすく、1歳児クラスから発信することも増えた。こうして子どもの興味・関心を見取り、変化を見逃さず保育者間で共通理解した経験が、チームのエネルギーとして好循環を生み出していくことを実感できた公開保育の取り組みは有意義であった。今後も自分自身の保育者としての向上心を忘れず、子ども達を中心に考えた質の高い保育内容を目指していきたい。

表1　1歳児いちご組・活動経過

日時	活動内容 予想される子どもの思い	◎子どもの読み取り ☆教師の援助
5月上旬	○お散歩に行って遊んだよ 開放感・感触遊び ごっこ遊び お砂遊び楽しいな 先生、見て見て～ ブッブー（車） 代わってよ～ 僕も乗りたい！	◎小さい公園の砂場、ちょうど人数に適しじっくりと遊んでいる子ども達。 ◎砂の感触にも抵抗なく、じっくり遊んでいる。 ☆砂場で遊べるようにスコップなど扱いやすい玩具を持参する。 ◎乗り物の遊具では、友達と一緒に電車やバスなどの乗り物に乗っているように楽しんでいる。 ☆一緒に乗ることで落下やトラブルにならないように保育者が見守る。

5月中旬	○ストロー遊び　感触遊び・ごっこ遊び ジュースみたい 足で踏んだら 気持ちいいな 	◎ストローを触ったり、透明コップに入れたり思い思いに遊んでいる。 ☆ストローを5cm程度（口に入れても大丈夫な長さ）に切ってたくさん準備する。 ☆透明コップを途中で出して遊びの展開を見守る。 ☆保育者も一緒にジュースづくりを楽しむ。 ◎足で踏むと気持ちいいのか、ストローを踏んで歩きだす子どももいる。 ☆保育者も一緒に足で踏み、足裏の感触の良さを子ども達と共有する。
	○園庭遊び　ごっこ遊び 乗り物 大好き～ 押してあげるね うん！	◎園庭に出ると競って三輪車やバンバンカーに乗って遊んでいる。 ◎乗り物が好きな様子で遊んでいる。 ☆乗り物の取り合いに配慮し、順番に使えるようにする。 ☆保育者も乗り物の後ろを一緒に押して順番にできるようにする。そうすることで一緒に遊べることも伝えていく。
5月下旬	○ハンドルで遊ぼう　ごっこ遊び ○車で遊ぼう ブッブー ブーンブーン 一緒に乗ってるよ この椅子、車みたい 二つ一緒に 走らせよう 押してあげるね 見て見て！ どこにいこうかな	☆互いにぶつかったりしないように伝えておく。 ☆ハンドルを作って運転ごっこができるようにする（一人一つずつ）。 ☆曲「バスに乗って」などの用意をする。 ◎曲「バスに乗って」がかかると、より楽しそうに遊んでいる子ども達。 ◎広い場所で自分の行きたい場所に行って楽しんでいる。 ☆展開として、座れる物を準備する。 ☆座れる物も一人用や数人で座れる大きな物も準備する（段ボールやカラーブロックなど）。 ◎座れるものを出すことで、違った遊びを楽しんでいる。 ◎友達と一緒にごっこ遊びを楽しんでいる。 ☆数日後、コの字型の椅子や牛乳パックで作った車や電車を用意する。 ◎自分が乗って遊んだり、車などを持って走らせたり、好きな遊びを選んで遊ぶ。 ◎友達の椅子（車）を押す姿や、友達と一緒を意識して遊んでいる。 ☆展開として先日使ったハンドルを出す。 ◎ハンドルを持つことで、自分が乗る車で遊びだす子どもがいる。 ◎ハンドルをもって車に乗る友達を見て自分もやりたくなり、乗る車で遊びだす子どもが増える。

5月下旬	○絵の具　感触遊び 何か、気持ちいいな わぁ～、色がくっつく～	☆絵の具をジップロックに入れて間接的に感触を楽しめるように準備する。 ☆混色が楽しめるように絵の具の色を選択する。 ◎絵の具が手につかないので、安心して感触遊びを楽しんでいる。 ◎ジップロックの上から絵の具を指で広げることで、混色を不思議に思いながら遊んでいる。
6月上旬	○小麦粉ねんど遊び　感触遊び・造形遊び ごっこ遊び 気持ちいいなぁ～ 作ったものを 入れよう	☆2回目の小麦粉粘土。今回は食紅で着色し遊べるようにしておく。 ☆小麦粉に食紅をあらかじめ混ぜておき子ども達の前で水を入れて練っていく。 ◎粉に水を入れたら、その水が食紅の色に変化する様子を不思議そうにじっくり見ている。 ☆練る途中も感触を味わえるようにする。 ◎丸めたり、ちぎったりしている。保育士と一緒に長く伸ばしたり自分もやってみたりしようとする姿もある。 ☆作ったものを入れる容器なども準備し展開できるようにする。 ◎容器をもらうと作ったものを入れてご馳走のようにして遊んでいる。
6月下旬	○3歳児とバスごっこ　ごっこ遊び お兄ちゃん達優しいな お姉ちゃんに乗せてもらった どうぞ、乗ってください 出発するよ～	☆3歳児運動会の種目の〈動物村のぽんぽこバス〉を見ていたので一緒に遊べるように保育者間で打ち合わせをする。 ☆3歳児のリードで遊べるよう援助する。 ◎お兄ちゃんたちが使ってたバスに一緒に乗せてもらい嬉しい反面少し緊張気味な子ども達。 ◎優しくしてもらって安心して遊んでいる。
	○水遊び　感触遊び 気持ちいいなぁ～	◎水の感触（冷たさ・気持ち良さ）を存分に楽しんでいる。 ☆水鉄砲・ひしゃく・桶などをたくさん用意し一人ずつ使えるようにする。 ☆水を嫌がる子どもには無理強いせず、少し離れた場所に少しだけ水を入れた容器を置いて保育者も一緒に遊ぶ。
7月上旬	○パン粉ねんど遊び　感触遊び 環境・表現　造形遊び サラサラ音がする 気持ちいいな～ （水と混ざったら） くっついてきた	☆一人一つのボウルを用意し、パン粉を粉からの感触を味わえるようにする。 ◎粉はサラサラするのでみんな楽しそうに触っている。 ◎水を加えると粘りが出てきて粉が手にくっついて粉との違いを感じている。 ◎今回は感触遊びが中心であった。

7月上旬	○フィンガーペインティング　感触遊び ○寒天ゼリー遊び　造形遊び ニュルニュルする～ 気持ちいいなぁ～ 面白いな～	☆戸外で思い切りフィンガーペインティングを楽しめるようにする。 ☆保育士も一緒に行うことで、安心して楽しめるようにする。 ◎白の模造紙に手で絵の具の感触を楽しみながら塗り広げる子ども達。 ◎混色を楽しむ姿もみられる。 ☆寒天ゼリーに食紅で色付けして、より楽しめるようにする。 ☆カップやスプーンを準備しごっこ遊びができるようにする。 ◎寒天ゼリーの感触を楽しみながら、スプーンですくったり容器に入れたりして楽しんでいる。
7月下旬	○自分の車を作ろう　造形遊び ○車で遊ぼう　ごっこ遊び お絵かきして格好よくしよう ブッブー ぼくの車、ブンブーン ここに、ご馳走を乗せよう	☆あらかじめ自分の作りたい車を選べるように一人ずつ聞いて進めていく。 ☆扱いやすいマジックペンでお絵かきをする。 ◎自分が選んだ車に親しみをもち取り組んでいる。 ☆テラスにテープなどを貼っておき、道路に見立てて遊べるようにする。 ◎線を意識しながら車を走らせている。 ◎自分の作った車を嬉しそうに走らせている。 ◎その場に居る友達と楽しんでいる。 ☆部屋にままごとの食材を出しておく。 ◎車の荷台に、食材を乗せて走らせたり食材を乗せたりおろしたりすることを楽しんでいる。

表 2　1 歳児いちご組・当日の展開

本時のねらい
・パン粉粘土の感触を楽しむ。
・保育者の仲立ちのもと、見立て・つもりあそびを友だちと楽しむ。
本時の展開

時間	幼児の活動	環境の構成や教師のかかわり
10:00	○「はたらくるま」のペープサートを見る ○保育者の話を聞く　言・表	・保育者の話を聞いたり絵本を見たりして、落ち着いた雰囲気の中で活動に向かえるようにする。
10:10	○パン粉粘土であそぶ　健・言・人・環・表 ・握る、ちぎる、丸める、伸ばす ・口に入れようとする ・色のついた粘土を混ぜてみる ・見立てることを楽しむ ・偶然できた形を楽しみながらイメージを広げて遊ぶ ・自由に変化する粘土の形や色のイメージから見立てあそびに展開している	・机・イスを並べておく。 ・遊び方の約束と使い方を伝える。 ・大きなパン粉粘土の塊をみせることで遊んでみたいという気持ちがもてるようにする ・手で触ることが苦手な子に対しては無理強いせず、保育者が傍について誘ったり言葉がけをする。 ・粘土に集中している時は見守り共感する声かけをする。
10:25	○粘土を車にのせて運んだり走らせたりする。 言・表・人・環 ・テラスに出る ・テラスには道や山、工事中の場所があることを知る ・好きな場所で思いきり車をはしらせる ・粘土を下ろしたり、届けたりする ・運転しているつもりを楽しむ	・粘土を触っていた手が拭けるように一人一つの濡れタオルを用意する。 ・粘土あそびを続けたい子は室内で続けられる環境を整える。 ・音楽をかけて楽しい雰囲気を作る。 ・普段飼育している虫や生き物をテラスに置いたりするなどして届けるイメージを持てるようにする。
10:45	○活動を終える　人・環 ・お片付けをする	・車を片付け手洗いをする。 ・あそびのスペースで過ごす。
11:00	・順次シャワーをする	

3.2　3 歳児（ばら組・ふじ組・ゆり組）・子どもの姿

4 月当初、2 歳児クラスからの進級児は比較的早くに新しいクラスに馴染み、「ままごと」などを楽しむ姿がみられたが、新入園児からは不安な様子が伺えた。進級・新入園児ともに安心して園生活を楽しんで欲しいという願いから、遊びの様子を見ながら玩具の質や量を検討したり落ち着いて絵本を楽しめるコーナーをつくるなどの物的環境を整えたり、個々の気持ちに寄り添い保育者と信頼関係を築けるようにしていったところ、一人ひとりが好きな遊びを見つけ安心して遊べるようになっていった。5 月の園外保育でバスに乗ったことから「バスごっこ」、6 月の運動会で年長児の鼓隊練習を何度も見学する機会を得たことから「鼓隊ごっこ」など、経験したことを再現したり年長児への憧れの気持ちから模倣したりするごっこ遊びを楽しむ姿がみられるようになった。

6 月末、バウムクーヘンロボットがこども園にやってきた。ロボットがバウムクーヘンを作っていく様子を食い入るように見ていた。やがて、ロボットの蓋が開くと甘い匂いが漂い、

視覚とともに嗅覚をも刺激された子どもたちの思いはさらに高まり最後にバウムクーヘンの試食をさせてもらったことで味覚への刺激も加わり、この経験を何とか表現したいという思いに駆られた子どもたちは新聞紙とセロテープを使ってバウムクーヘンを作りだした。まだセロテープの使い方もおぼつかない3歳児であるが自分なりのバウムクーヘンを作り、ままごとのお皿に乗せて食べるまねをして遊び始めた。しかし、お皿とバウムクーヘンだけではなかなか遊びは続いていかない。そこで、段ボールでオーブンを作成し保育室内に置いてみたところ、そのオーブンにバウムクーヘンを入れたり出したりしながら再び遊び始めた。バウムクーヘンという名称は遊んでいるうちに、子どもたちにとってより馴染みのあるドーナツへと変わっていったが自分たちで作った物を使って遊ぶことに夢中になっていく姿は変わらず続いた。遊んでいるなかで「昨日食べたドーナツはチョコついてた。」「これにもチョコつけたいよなぁ。」という声があがったので、のりを混ぜた絵の具と端紙を用意すると着色したり端紙をハサミで細かく切ってトッピングしたりして自分がイメージしたものを作ることを楽しみはじめた。「ドーナツくださーい。」「はい、どうぞー。」「一緒にパーティーしよう！」などの会話が増えてきたところで、7，8人で囲めるサイズの円卓を段ボールで作成してドーナツごっこの近くに置くと、ドーナツ屋さんの場とパーティーの場を見分けやすくなったようで、自分の遊んでいる場所を拠点として行ったり来たりして遊ぶようになった。

遊びが深まるにつれ、子どもたちの会話の中に「カバン要るなぁ。」「ドーナツ屋さんは帽子被ってるやん。」など、必要と感じたものを作りたいという言葉が出てくるようになった。子どもの思いをすぐに実現できるように新聞紙や端紙、廃材などを手に取りやすい所に準備すると、必要なものを作ったり壊れた物を修理したりしながら遊び、ハサミやセロテープといった道具の使い方も上手になり、友だち同士の言葉によるやりとりも増えていった。さらに夢中になってつもりになって遊ぶうちに、クラスを越えて遊びが広がっていった。

そこで、担任同士でクラスの様子や遊びの広がり方を話し合う機会を今まで以上に多くもつようにして、担任間で子どもの「ごっこあそび」を見守るようにした。学年での話し合いが深まるにつれ、他クラスの子どもの姿や担任同士の思いも共有できるようになり各クラスの課題が明確になってきた。自分の思いを通すばかりの子、したいことを上手く見つけられない子などへの配慮や手立てを学年全体で考え、担任が課題だと思っていたことも他クラスの担任から見ると良い点という捉え方ができたり、集団生活のルールとして留意する点に気付くことができたりもした。その結果、公開保育当日は3クラスのごっこ遊びは盛り上がり、3歳児らしいトラブルや葛藤はみられたものの自分たちで役割を交代したり遊び場を自分で設定したりして遊ぶようになった。

〈考察〉

子どもたちのごっこ遊びは、身近なもの・ことの再現や憧れの気持ちからの模倣であったりと、実際に体験したことからのスタートであった。再現や憧れはごっこ遊びの原動力となり、自分が見たものや感じたことに心を動かされ、なりきったり、つもりになったりして遊ぶことを楽しむ姿があった。遊びが広がっていくためには一人ひとりがごっこ遊びを楽しむことが大切であると考え、まずは子どもたちがイメージしやすい環境設定を試みた。子どもたちの遊びが広がっていくと予測される時期に見立てたりイメージの共有がしやすいものを提供したりすることで、子どもたちの動きが引き出されるように環境を設定した。そのためには子どもたちの遊びや取り組みの様子をよく見取り、子どもの必要性を捉えたうえで提供するタイミングを工夫した。タイミングが良くなかったり、子どもの思いと違うものであった時には遊びが停滞することで、子どもの見取りの重要さを改めて感じた。環境構成は一度設定したら終わりということではなく、子どもの動きや遊びに集まる人数に応じて広さを調整したり必要に応じて再構成をしたりして、一人ひとりの遊びを保障しながら遊びの場を共有できるように心掛けた。場の構成の仕方によっては、役割が生まれたり、やりとりが盛んになったりもした。保育者は子ども同士をつなぐ援助をするということを念頭におき、必要なときには遊びの中に入りながら遊びの楽しさを伝えたり、子どもの気持ちを代弁したり仲介したりすることでイメージを共有して遊べるように援助し、子ども同士で遊び込めている時にはそっと見守るようにすることで子ども主体のごっこ遊びを保障した。ごっこ遊びはイメージの世界で友だちとやり取りする中で、「言葉による伝え合い」「共同性」「豊かな感性と表現」「道徳性・規範意識の芽生え」などが育まれる遊びである。心が揺り動かされる体験を存分に経験し、それを通してイメージを膨らませて言葉や体全体で様々な表現を楽しんでほしいと願っている。学年全体でごっこ遊びをすることで、担任同士で気付いたことを出し合い、実際の子どもの姿から子どもの理解を深めたり、豊かな表現につながる保育者の援助について話し合う機会が増え、学び合うことができた。多角的に意見を話し合うことで保育者自身の見方を修正したり、子どもたちの新たな一面に気付くことも多かった。この経験を今後の保育実践に生かしていきたい。

表3　3歳児・活動経過

（ばら組）

日時	活動内容	◎子どもの読み取り ☆教師の援助
6月下旬から7月中頃	ドーナツを作ったよ！ ○新聞紙でドーナツを作って遊ぶ。 ドーナツ、できましたよ パーティが始まるよー！ ドーナツを入れるカバンが要るなぁ わたしたち、カバン作るわ！	◎新聞でドーナツを作って遊ぶ子がいた。 ☆他児に知らせることで遊びに興味をもたせる。 ◎作ったドーナツをお皿に乗せたりオーブンに入れたりして遊び始める。 ◎できたドーナツに「チョコをかけたい」「飾り付けをしたい」という声が出る。 ☆のりを入れた絵の具と飾り付け用の端紙を用意し、安全にハサミを使えるように側で見守る。 ☆さらに遊びが広がるように、円卓を用意する。 ◎円卓を囲んでドーナツパーティを楽しむ子ども達。 ☆楽しそうな会話をピックアップし、更にごっこ遊びの世界を楽しみ、共有できるようにする。 ◎間仕切りを利用してドーナツ屋さんごっこが始まる。遊びに必要なものを作りたいとう思いが強くなる。 ◎カバンを使ったことで、ドーナツを入れて他クラスへ遊びに行く姿もみられるようになる。
7月中頃から	給食の冷やし中華を作りたい！ ○給食の冷やし中華がおいしかったので、これも作りたいという声があがる。 冷やし中華もありますよー！ 買ってきたよー！ 	◎ごっこ遊びが広がる中で、言葉によるやり取りが増えてくる。 ◎遊んでいるうちに壊れた物を修理しようとする姿も見られるようになる。 ☆作りたいと思ったときに制作活動ができるように新聞紙や端紙、廃材などを準備をしておく。 ☆必要に応じて子どもの気持ちを代弁したり仲介したりして、イメージを共有して遊べるように援助する。

（ふじ組）

日時	活動内容	◎子どもの読み取り ☆教師の援助
7月初旬	みんなでパーティー！ ○大きな机で、おままごとでのごっこ遊びをした。 	☆子ども達がかかわって遊ぶことができるように大きな机を出していつものおままごとに変化をつけられるようにした。 ◎「パーティーが始まった！」と話す子ども達。 ◎パーティーということもあり、ままごとで使っていた食べ物のおもちゃを、ハンバーガーやサンドイッチ、ジュースなどに見立てて遊ぶ子ども達。 ☆パーティーで見立てて遊んだハンバーガーを色画用紙やお花紙で作ってみようと子ども達に提案する。
	ハンバーガーを作ろう！ ○パーティーでハンバーガー遊びを行った後、色画用紙を用いて手で折ったり、ちぎったり、丸めたり、グシャグシャにしたり、広げたりして、レタスやトマトなどハンバーガーの具材を作った。 	☆ハンバーガーの中の具材について話し合う。 ☆ハンバーガーを作る中で、折る・ちぎる・丸める・広げるなどの手指の活動（微細運動）を取り入れるようにする。 ◎「いっぱいチーズ作った！」「お肉がいっぱい入っているよ！」「お野菜も入れたよ！」と口々に話す子ども達。
7月中旬	早速、みんなで作ったハンバーガーで遊んだ！ ○お店屋さんごっこをしたり、カゴにいっぱいハンバーガーを入れて、配達したりして楽しむ。 	☆カゴなどごっこ遊びをするための道具を整える。 ◎友達に「ハンバーガーはいりませんか？」「お届けものです！」と言ってやり取りをしようとしている。 ◎ハンバーガーをもらった子どもは嬉しかったのか、思わず「パクリッ！」 ◎ピクニックごっこをしている子どもたちもいた。 ☆子ども達の嬉しい楽しい瞬間を見逃さず、周りの子ども達にもその思いを共有できるようにする。

（ゆり組）

日時	活動内容	◎子どもの読み取り ☆教師の援助
4月中旬	一緒にあそぼう！ お茶は、どれに入れたらいいのかな？ お弁当ができたよ。どうぞ！ ブロック高くなってきたね～ これと違う？ 	◎新しい木のままごと玩具の遊び方に戸惑う子どもたち。 ◎友達と話しながら遊ぶ進級児 ☆保育者も一緒に遊ぶ中でままごとが楽しめるように配慮する。 ☆ままごとコーナーで見立てて遊べるようにペットボトルの蓋をくっつけた物を準備する。 ◎ブロックならできる。パズルをしたい ☆家庭で遊んでいる遊びをすることで園でも安心して遊ぶ事ができている。 ☆コーナー遊びを充実させる
6月中旬	ポンポコバスに乗ってゴーゴーゴー！ ぼくも乗せてください。 どうぞ！	◎運動会で「ポンポコバス」のリズム体操を楽しんだ子ども達は、その後も「ポンポコバスが出発しま～す！」と椅子を持って並べだし、それぞれが運転手になって遊んでいる。 ☆新聞紙でハンドル作りを投げかける。 ◎ハンドルを作って運転し「おおがたバスにのってます～」と歌い出して遊ぶ。 ☆歌いながら楽しめるようにピアノを弾く
7月中旬	カレーライス作り 夏野菜カレーをつくろう！トマトにピーマンいれるよ カレールーを作って・・お野菜をいれていこう！ 	☆月刊誌でカレーライス作りを読み聞かせる。 ◎カレーライスをつくりたい。 ☆具材の話し合いの時間をもち、切りやすい大きさの画用紙を準備する。 ◎具材を食べやすい大きさに切る。 ☆絵の具に糊を入れてカレールーを準備する。 ◎「おいしくな～れ」と画用紙に絵筆でカレーを塗り、具材を貼っていく。 ☆重ねて具材を入れたいときは、糊で具材をつけていくよう伝える。 ☆カレーライスごっこが楽しめるように環境を整える。

表 4　3 歳児（ばら組・ふじ組・ゆり組）・当日の展開

本時のねらい
・作った物を使って見立てたり、つもりになったりしながら、思い思いのごっこ遊びを楽しむ
・友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ
本時の展開

時間	幼児の活動	環境の構成や教師のかかわり
10:00	○朝の会 ・今日の活動の確認をする 言葉による伝え合い	・今までの遊びを振り返り、今日はどのような遊びをしたいのかを発表できるように進める。 ・今日の遊びに期待を持てるような雰囲気をつくる。
10:15	・遊戯室に移動する ○ごっこ遊びをする ・ドーナツ屋さん、カレー屋さん、ハンバーガー屋さんになって遊ぶ ・遊びに必要なものをつくって遊ぶ 言葉による伝え合い　共同性 豊かな感性と表現　健康な心と体 道徳性・規範意識の芽生え　自立心 数量や図形、標識や文字などへの関心 思考力の芽生え	・作った物ですぐに遊べるように準備をしておく。 ・一人ひとりがつもりになって遊んでいる姿を見守ったり一緒に遊んだりして遊びを十分楽しめるように援助する。 ・必要に応じて、イメージを持って遊びを楽しめるように声を掛けていく。 ・安全に遊べるように遊びの様子を見ながら場を整理したりする。 ・言葉によるやりとりの様子を見守りながら、必要に応じて保育者も一緒に遊びに入り作った物で遊ぶ楽しさが味わえるように働きかける。
10:35	・片づけをする 共同性　自立心	・遊んだものを友だちと協力して片付けられるように援助する。
10:45	・今日の振り返りをする 自立心　思考力の芽生え 言葉による伝え合い	・発問などをして子どもに考える、意見を述べる機会をつくる。 ・子どもたちの思いに共感し次回の遊びにも期待をもてるように働きかける。

4　公開保育当日

4.1　当日の流れ

今年度はコロナ禍のため公開保育参観者は各園から 2 名という制限があったが、地域の園関係者（幼稚園・保育園・子ども園）はもちろんのこと、地域の小学校校長・教諭、教育委員会、そして大阪大谷大学、大谷学園から、総勢 40 名の方々の参加があった。まず、参観者の目を引いたのは、各クラス前に貼り出された、当日までの経過を伝える模造紙大の掲示（保育ドキュメント）であった。子どもが遊ぶ様子の写真に言葉を添えたり、具体的な活動の流れや保育教諭の思いを記録した掲示に関心をもつ方が多かった（写真 1）。当日に配布した、写真を取り入れた保育の経過を掲載した保育指導案冊子と共に、保育室前の掲示も目の前の子ども

の姿を捉えやすかったと思われる。

当日の保育教諭達は、意図（ねらい）をしのばせながらも指導案に引っ張られるのではなく、あくまでも当日の子ども達の姿を見取って、いつもと変わらず落ち着いて保育を進めていた。それは当日までの経過を大切に取り組んできた保育実践だからである。また、大勢の参加者の傍らに、子ども達はいつもの活動を存分に楽しんでいた。これは、保育教諭が子どもの主体性を軸にした活動を大切にして保育に向き合ってきたからである。

写真 1　保育室前の掲示をご覧になる参加者

ここで各クラスの公開保育当日の実践を紹介する。

写真 2　ハイハイレーンで遊ぶ 0 歳児

写真 3　はたらく車で遊ぶ 1 歳児

写真 4　お絵描き遊びを楽しむ 2 歳児

写真 5　ごっこ遊びを楽しむ 3 歳児

表 5　当日の保育活動

年齢	クラス名 場所	題材・ねらい・活動	
0 歳	もも組 （図書室）	題材	『ハイハイレーンで遊ぼう』（写真 2）
		ねらい	・「ハイハイレーン」を通して、感触遊びや運動遊びを楽しむ
		活動	ハイハイしながら様々な感触を感じ、視覚や感覚、聴覚も使って楽しむ遊具として考案された「ハイハイレーン」で遊ぶ。
1 歳	いちご組 （保育室）	題材	「みたてつもり遊び」（写真 3）
		ねらい	＊前ページに記載
		活動	
2 歳	ぶどう組 （保育室）	題材	『おえかきあそび』（写真 4）
		ねらい	・様々なイメージを膨らませながら友達と絵を描くことの面白さや楽しさに気づく
		活動	大小の画用紙や大きな段ボールなど、様々な素材に、筆やサインペンなどの道具を使って友だちと一緒に描くことを楽しむ。
3 歳	ばら組 ふじ組 ゆり組 （遊戯室）	題材	『ごっこ遊び』（写真 5）
		ねらい	＊前ページに記載
		活動	
4 歳	まつ組 第 1 園庭）	題材	『染め遊び』（写真 6）
		ねらい	・クラスで育てた花や園庭の草花を使って色水遊びや染遊びを楽しむ
		活動	種から育てた花を使って遊んできた「色水遊び」の経験を活かし、草花の色の変化の面白さや道具を使う楽しさを感じながら、よりきれいな色水を作ったり、さらには自分で作った色水で染め遊びを楽しむ。
	もみじ組 第 2 園庭	題材	『泥んこ遊び』（写真 7）
		ねらい	・砂や泥の感触を味わいながら友達と考えたり試したりして遊ぶことを楽しむ
		活動	泥の感触を存分に楽しむなかで様々な泥の性質に気づき、発見した新しい考えや遊びを友達と伝え合い、試行錯誤しながら砂や泥で遊ぶ楽しさを味わう。
5 歳	つき組 （保育室）	題材	『田んぼの生き物』（写真 8）
		ねらい	・友達と相談しながら身近な自然を取り入れて遊ぶ
		活動	春から「お米つくり」に取り組んできた子ども達が、様々な素材で作った田んぼの生き物「ホウネンエビ」や「カエル」を題材にして、友達と一緒に考えを出し合い、ルールある遊び場を制作することを楽しむ。
	ほし組 第 3 園庭	題材	『園庭の種で遊ぶ』（写真 9）
		ねらい	・種の不思議を感じながら遊びに取り入れて思ったことを表現する ・友達と協力して自分たちの遊び場をつくる
		活動	春からの「お米つくり」の活動の中で様々な「種」に興味をもった子どもたちが、芽出しした苗を「ほし組花壇」に移植したり、カラス除けの案山子や看板作りを楽しみ、自然の不思議さや面白さを感じる。

写真 6　染め遊びを楽しむ 4 歳児まつ組

写真 7　泥んこ遊びを楽しむ 4 歳児もみじ組

写真 8　田んぼの生き物の制作遊びをする 5 歳児つき組

写真 9　園庭の種で遊ぶ 5 歳児ほし組

4.2　討議会

保育終了後、参加者も含め一同遊戯室に集合した。まずは本園のこれまでの取り組みや研究テーマ、研修のあり方などを説明した。その後に各担任が、どのような思いで公開保育に臨んだか、ねらいを達成するために子ども達にどんなことを経験してほしかったか、そして本時の子どもの遊ぶ姿を中心に保育を振り返った（写真 10）。保育教諭のほとんどが公開保育は初めての経験であり緊張していたと思われるが、一人ひとりが自分の言葉でしっかりと振り返る姿がみられた。

写真 10　討議会

今回の公開保育では、参観者が保育中に感じたことや質問事項などを、付箋を利用して忌憚なくメモして各保育室前に張り付けていただくコーナーを設置した。討議会のご意見や付箋のメモからも、子どもの主体性や保育教諭の子どもを見守る姿や環境構成、継続した保育につい

て評価をいただいた。主な記述や意見は以下の通りである。

・保育教諭が意図した保育の中で子どもたちが主体的に活動していた
・子どもの見取りを丁寧に行い環境構成の中から課題を見つけて再構成している
・環境構成の大切さを実感して、自分が押しつけの保育をしていないか自問自答した
・豊かな自然環境を生かした保育である
・実体験して遊びを継続する中で子ども同士がたくさん伝え合っている
・継続した保育で遊んでいく力を大切にしたいと改めて感じた
・活動の見通しを立てることや子どものつぶやきや気づきが主体性につながっている。小学校でも大切にしたい。

以上のように、参加者たちも自分の保育・教育と重ねて振り返り、様々な気づきがあったことが分かる。

5　保育教諭の資質向上と、『資質・能力の 3 つの柱』

公開保育当日の保育は、研修会議で学び合った「自然の中での子どもの興味関心や子どもの見取り」「環境構成や遊びの継続性等の捉え方」が土台になり、保育内容や実践方法を丁寧に職員間で検討し、各年齢に応じた実践へつなげていった。特に、保育指導案（子どもの実態と教師の願い・経過・本時の展開）を作成する中で自分の保育を振り返り、多角的な視点から育ちを捉え子ども理解を深めた。また、普段研修会議を共にすることが少なかった乳児部と幼児部すべての職員が公開保育に向かって共に進む中で、0 歳から 5 歳までの成長・発達を捉えることができた。

後日、「今回の経験からの学び」・「当日の運営面からの気づき」・「こども園としての公開保育の捉え」を通して公開保育を振り返った。保育教諭が公開保育を通して学んだことの記述は以下の通りであった。

0 歳児

・0 歳児にとっての 4 カ月間の発育発達は、急激に加速することを改めて知るきっかけとなった。
・公開保育の指導案は、今までの活動のねらいや取り組みの振り返りになるとともに、今後の保育の参考にもなる。
・子どもの主体性を大切にした保育の中で、子どもの成長がよく見えた。

1 歳児

・乳児は朝のおやつ、登園準備、シャワーなど必ず生活の場面が付随してくるので基本的生活

習慣の流れを大切にしたい。

・複数担任間で話し合う機会が増えた。今後も話し合うことを習慣づけていきたい。

2 歳児

・0 歳児から 5 歳児まで継続した保育、主体性を大切にしたつながりのある保育や、年齢に応じた保育内容、見通しを持った保育の大切さを再認識した。

・長瀬先生の「園に来ないとできない体験や経験をたくさん取り入れて」、という言葉が印象的だった。家庭ではなかなか経験できない活動、集団だからこそ取り組める活動を大切にしたい。

・保育者が先走って遊びを展開させようとせず、寄り添い見守る中で、一人ひとりがじっくりと遊ぶ姿がみられた。

3 歳児

・保育教諭の想定以上に、3 歳児も子ども達でイメージを広げて遊ぶ姿がみられた。

・子どもの言葉をキャッチして、子どもの思いを実現するための保育を探る中で、子ども達の思考力や想像力が育っていくことがわかった。

4 歳児

・子どもたちが興味をもち夢中になって遊ぶ姿から発見や新たな遊びが生まれ、継続した保育につながると感じた。

・討議会で何度も「主体的な活動」という言葉が取り上げられていた。今後も大切にしていきたい。

5 歳児

・自然を通した子どもたちの興味関心は、子ども自身が過去の遊びを振り返るツールになった。

・卒園後の花壇や畑について子ども達と話し合っていきたい。

全職員で共通した意見

・掲示を作ったことで子どもたちも活動を振り返り、興味関心の深まりがみられた。

・研修や職員間の話し合いを重ねてきたので、当日も構えずに取り組むことができた。

・改めて研修や振り返りの大切さを感じた。

・幼児部・乳児部みんなで保育を語り合う機会がとてもよかった。

・各テーマに沿った保育や年齢・発達に応じた保育が学びになった。

・0 歳から 5 歳までの一貫した保育を感じることができた。

・よい緊張感をもちつつ、保育教諭としての姿勢や声掛けを今まで以上に意識する良い機会になった。

・参加くださった方々からのコメント、意見、感想は大変心に響いた。

このように公開保育を経験したことで、一人ひとりが公開保育までの過程、そして当日をしっかりと振り返り、学びが多かったと実感する様子がうかがわれる。特に公開保育当日の、子ども達の普段と変わらない姿から様々なことに気づいたことがわかる。「公開保育」は保育教諭一人ひとりの力となり、また課題であった乳児部と幼児部の職員組織のつながりを深めた。

また、公開保育のまとめとして、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された、生きる力の基礎である『資質・能力の3つの柱』に応じた事例を各担任が挙げ、一つの表に重ねた（図表6）。この表から、今回の「公開保育」の活動は、0歳から5歳までの遊びを通した総合的な指導であったことがわかる。3つの柱は、相互に支え合い刺激し合いながら育つことから、保育教諭は改めて今回の公開保育での実践が、子ども達の6年間の長い育ちの中で、様々なことに気づいたり、工夫したり、粘り強く取り組んだりする基礎となる活動であったこと整理ができた。

6　公開保育から得たもの・意義

近年、子どもを取り巻く環境の変化に伴い、「こども園」に求められる役割が拡大し、保育教諭への期待もますます大きくなっている。保育の質の向上、保育教諭の資質向上は切迫した課題となっている。本園は令和2年度からスタートした研修の成果として、保育教諭の研修の捉え方が変化するとともに、「子ども達の主体性を尊重する保育」を目指し環境構成の工夫を繰り返すことで保育教諭の保育に対する目や思いが養われてきた。今回の公開保育では、子どもの経験をより豊かにする環境を工夫しようと努力し、子どもの姿を深く観察する中でそれまでの学びが確信につながり、なおかつ0歳から5歳までの保育教諭全員がかかわって話しあうことで、意識の共有が進み、みんながひとつの方向を向いて園内に一体感が生まれた。すなわち、課題であった「職員間の連携」が深められたことにより、「保育教諭の資質向上」にもつながったといえる。

当日の討議会の総評として、大阪大谷大学長瀬美子教育学部教授から、こども園の恵まれた環境を活かした保育教諭の工夫がよくあらわれた公開保育であったと評価していただいた。また、0歳から5歳までの6年間の見通しをもった活動・こども園に来ないとできない経験を保障し、子どもの興味関心に気づき環境を整え、計画を立て直していくことが大切であるとご助言いただいた。

本公開保育は、大阪狭山市内における各保育園・子ども園対象の中、輪番制でスタートした公開保育であったが、本園にとって得たものは大きなものであった。

公開保育の意義を以下の3点にまとめた。

① 全保育教諭での取り組み

乳児部と幼児部では、子どもの生活の流れが異なることから合同の研修時間をとることが難しく、クラス別で、年齢別で、乳児部・幼児部別での研修が中心であり、課題や目的によっては個別の研修の方が内容の深まる場面もあった。しかし、個別で研修を行った場合も紙面で報告し合うなど、常に0歳から5歳の様子を意識しながら進めることを大切にした。そのことで貴重な全体研修を有意義に使うことができた。その過程で保育教諭は、6年間の子どもの発育発達を実に顕著に捉えることができた。公開保育直前の事前会議では、全員がお互いの保育指導案を読み理解した上で会議に出席し、各担任からねらいや経過そして当日の保育の流れについて報告し合い全保育教諭で共通理解した。このことから、本公開保育は全保育教諭での取り組みであった。保育の質の向上は全保育教諭にかかわる問題であり、ひいては地域の保育の資質向上にもつながる。

② 組織的かつ計画的な取り組み

幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (4) 園児の理解に基づいた評価の実施 ①評価の実態において、ア)「指導の過程を振り返りながら園児の理解を深め、園児一人ひとりのよさや可能性などを把握し、指導の改善に生かすようにすること。」 イ)「評価の妥当性や信頼性が高められるよう創意工夫を行い、組織的かつ計画的な取り組みを推進するとともに、次年度または小学校にその内容が適切に引き継がれるようにすること。」と述べられている。このように保育教諭は常に自らの保育を振り返り、6年間の見通しをもった組織的かつ計画的な取り組みが求められている。すなわち、保育の計画（P）実践（D）評価（C）改善（A）の循環の継続（PDCAサイクル）が重要であり、これらの連続の中で保育の質と職員の協働性が高められていく。本公開保育の取り組みは、各担任（乳児部は複数担任の中で）が子どもの姿をしっかりと読み取り、研修会議の中でも振り返りと改善を繰り返し当日に向かって保育を組み立てた。このことから組織的かつ計画的な取り組みであった。

③ 同僚性が活かされた取り組み

幼保連携型認定こども園教育・保育要領 第2節 一般的な配慮事項 1指導計画の作成（4反省、・評価と指導計画の改善 において「他の教師などに保育や記録を見てもらい、それに基づいて話し合うこと」「互いの指導事例を持ち寄り、話し合うなどの園内研修の充実を図ること」が必要であると述べられている。また、保育所保育指針の解説の中でも「同僚と話し合い、自らの保育を振り返りながら次の課題を見出すために、職場内での研修を行うことが大切」と述べられている。子ども達にとって何が一番大事なのかを、信頼関係の下全保育教諭で話し合い考え、学び合う組織になっていく必要がある。本公開保育の取り組みは、事前の研修会議はもちろんのこと、参観後討議会の参加者全員での学び合いや、全保育教諭での振り返りを丁寧に行った。このことから同僚性が活かされた取り組みであった。

以上から本公開保育は、保育教諭の資質向上及び園全体の保育の質の向上において成果がみられる取り組みであった。課題としては、コロナ禍での公開保育であったため、参観者の人数が制限されていたこと、参観後の全体討議後に分科会を実施することができなかったことである。年齢別または乳児・幼児別の分科会が行われれば、より深く年齢別のテーマに沿った話し合いが行われたと思われる。また、本公開保育が 8 月初旬に行われたために、本園約半数の 1 号児が直後に長期休暇（夏休み）に入ったことも残念である。その後も全園児登園できていれば、より遊びが深まり、新たな展開も見られたと思われる。

今回の「公開保育」からの様々な学びを、日々の保育に活かしていくことが大切であることは言うまでもない。また、積極的に他園の公開保育にも参加し、新しい気付きや学びを得たうえで保育をすすめていくことも必要である。全保育教諭が今後も向上心を持ち続け、獲得した学びを活かして、再び本園が公開保育を行う意識をもちつつ日々の保育の充実を図ることが重要である。そして長瀬美子先生のご助言、「民間園である限り特色ある保育が必要であり、そのためにも大学との関係を密にしながら 6 年間の基本原則をしっかりと踏まえ、教育の視点をもった幼児教育・保育を行う。」を本園の目指す道として、研修の日常性・実践性・具体性・継続性・計画性・同僚性を特徴とした園内研修を積み重ねることで、効果的かつ有効的に一人ひとりの職員の資質向上および職員全体の専門性の向上を図るように努めていきたい。

【参考・引用文献】

1）文部科学省・厚生労働省：「幼保連携認定こども園教育・保育要領」フレーベル館 2018
2）文部科学省：「幼児理解に基づいた評価」2018
3）厚生労働省：「保育所保育指針」2018
4）厚生労働省：「子どもを中心に保育の実践を考える」2019
5）井上美智子・無藤隆・神田浩行：「むすんでみよう子どもと自然」北大路書店　2010
6）大仲尚也・笹井邦恵・田中綾・西村理恵子・新田菜穂・井上美智子：「子どもと自然・命のつながりを知る保育実践のあり方を探る -11-」大阪大谷大学幼児教育実践研究センター紀要 No11　2021
7）秋田喜代美：「幼児教育じほう」全国国公立幼稚園・こども園長会事務局 2016

表 6

公開保育での０歳から５歳の資質・能力の３つの柱

知識及び技能の基礎

- もも:ハイハイレーンにある様々な感触に触れて楽しむ
- もも：一人ひとりの発達の中でハイハイレーンの斜面を上り下りができるようになる
- い:自分の"はたらくくるま"にパン粉粘土を乗せて運ぼうとする
- い:指差し・片言・動作や表情で「はたらくくるま」の絵本の場面に参加する
- ぶ:絵本の中に様々な形のドアや窓があることに気づく
- ぶ:絵具で様々な色混ぜができることに気づく
- ゆ:食材を作るためのハサミの１回切りやノリの扱いが上手くなる
- ふ:お花紙と画用紙との感触の違いに気づく
- も:泥だんご作りの中で様々な土に触れて泥の違いに気づく
- ば:セロテープは短く切る方が扱いやすいことに気づく
- も:ウオータースライダーや温泉作りに使う樋やビールケースの使い方がわかる
- ま:作った色水が日数がたつと変色する草花と変色しないのがあることに気づく。同時に匂いの変化にも気づく
- ま:すり鉢のギザギザしたところにすりこぎで草花をこすったら濃い色が出ることに気づく
- つ:段ボールカッターや千枚通しなど、少し危険な道具を気をつけて使うことができるようになる
- つ:稲の生長と田んぼに集まる生き物に興味をもつ
- ほ:針金をひねって網と網をくっつけ、栽培物を守る広さの網を考えて作る
- ほ:スイカの種を食べたのはカラスではないかと仮説を立てる

思考力・判断力・表現力などの基礎

- もも:お気に入りのマットを指差しや仕草で出すように要求する
- もも:少し高い場所から体勢を変えて危なくないように足から降りようとする
- い:自分で作った車や粘土を先生に「みてみて」とアピールする
- い:友達の車の動かし方や仕草や行動を真似て喜ぶ
- ぶ:何色で描こうかと考える
- ぶ:このお家は〇〇のお家だ！とイメージをもって描く
- ば:遊戯室の遊びの場を自分たちで作ることを楽しむ
- ゆ:お店屋さんごっこの中で「いらっしゃやいませ」や「これください」などの言葉を使ってのやり取りが楽しくなる
- ふ:ハンバーガーの具材についてチーズや肉、野菜などの具材つくりを工夫する
- も:ウオータースライダー作りで水の流れを工夫する
- も:温泉作りでは水をせき止める方法を工夫する
- ま:振り返りで自分がどのように色水を作ったか発表して次の活動につなげる
- つ:画用紙で作った稲を立たせるために試行錯誤する
- ま:どの草花がどんな色の色水か何度も試す
- つ:球が転がる方向を予想して紙管のつなげ方を工夫する
- ほ:どうすればカラスからみんなが育てている苗を守れるかを話し合う
- ほ:カラスがなぜスイカの芽を食べてしまったのかを考える

遊びを通しての総合的な指導

学に向かう力・人間性等

- もも:わらべ歌遊びの心地よい旋律で情緒が安定する
- もも:ハイハイレーンの様々な感触の違いに興味をもつ
- い:自分だけの車ということに気づき愛着をもって大切にする
- い:友だちの持っている車が欲しい気持ちに寄り添ってもらうことで気持ちを立て直す
- ぶ:少し高くて手の届かないところにも手を伸ばして描いてみようと挑戦する
- ぶ:友だちの姿を見て自分もやってみようとする
- ふ:友だちとのパーティーごっこを楽しみ積極的に参加する
- ば:遊びがより楽しくなるための話しあいができるようになる
- ゆ:自分たちで作ったチョコバナナやイチゴを大切に扱う
- ま:繰り返し活動する中で水の量によって濃さが違うことに気づき好奇心をもつ
- ま:作った色水で布や紙を染めるのにはどうすれば綺麗に染まるかを伝え合い共有する
- も:どろんこ会議でそれぞれの考えを伝え合い、クラスで共有して協力し合う
- も:さら砂作りを繰り返す中でより良いものになっていくことを喜ぶ
- ほ:友だちの栽培物も大切に思い生長を共に喜ぶ
- ほ:木の枝や布などの扱いにくい材料を使って、友だちと協力してかかしを作る
- つ:年少児にもわかりやすい看板を作ろうという思いをもつ
- つ:田んぼの生き物を粘り強く観察して図鑑で調べる

もも：０歳児もも組
い：１歳児いちご組
ぶ：２歳児ぶどう組
ば：３歳児ばら組
ふ：３歳児ふじ組
ゆ：３歳児ゆり組
ま：４歳児まつ組
も：４歳児もみじ組
つ：５歳児つき組
ほ：５歳児ほし組